

北海道ポーランド文化協会第77回例会(第2回東京例会)

# 遠藤郁子

ピアノリサイタル

「ショパンと私とポーランド」

## Program

### Chopin

Nocturne Fis-dur Op 15 - 2

(夜想曲 嬰へ長調 Op 15 - 2)

Prelude Des-dur Op 28 - 15

(前奏曲 変二長調 Op 28 - 15 「雨だれ」)

Nocturne cis-moll Postum

(夜想曲 嬰ハ短調 遺作)

### Chopin

Etude E-dur Op 10 - 3

(練習曲 ホ長調 Op 10 - 3 「別れの曲」)

Etude c-moll Op 10 - 12

(練習曲 ハ短調 Op 10 - 12 「革命」)

### Chopin

4 Mazurkas Op 24 - 1, 2, 3, 4

(4つのマズルカ

Op 24 - 1, 2, 3, 4)

### Chopin

Polonaise As-dur Op 53

(ポロネーズ 変イ長調

Op 53 「英雄」)



2016年6月23日(木)

開演 18:30

ポーランド共和国大使館ホール(目黒区)

参加費: 無料(定員 100名)

(開場 18:00)

※参加にはお申し込みが必要です。

裏面をご覧ください。



ポーランド広報文化センター  
INSTYTUT POLSKI TOKIO

主催: 北海道ポーランド文化協会  
共催: ポーランド広報文化センター  
後援: 日本ショパン協会  
シアターX(カ)

株式会社河合楽器製作所  
音響計画株式会社

## Profile - プロフィール - 遠藤郁子 Ikuko Endo

「90才の人生で初めて靈感で弾かれたショパンを聴いた(20世紀の巨匠ヴラド・ペルルミュテル)」、「イクコ・エンドウ偉大なるピアノの才能(巨匠アルトゥール・ルビンシュタイン)」、「今までイクコ・エンドウほど感動させられたピアニストはいない(ロンドン・デイリーテレグラフ紙)」、「日本人唯一のショパン弾き(ワルシャワ・フィル音楽総監督カジミエシュ・コルト)」、「50才を過ぎて咲いた花は人の命をも救う(人間国宝・金春信高～松本サリン事件の奇跡に際し)」、「天啓の音(文化功労者・畑中良輔)」と世界から絶賛される遠藤郁子の演奏は、「作曲者の魂を伝えるピアニスト」として内外に根強いファンを持つ。

3才よりピアニストの母、遠藤道子(ポーランド文化功労勲章、文部省地域功労賞、北海道開発功労賞、北海道文化賞、他受賞多数、日本ショパン協会北海道支部創設者)に音楽の手ほどきを受け、北海道初の東京芸術大学付属高校へ入学後、毎日新聞社主催「日本音楽コンクール」で北海道出身者初の受賞。東京芸術大学に入学後、1年の時に「安宅賞」を受賞し、日本代表として第7回ショパン国際ピアノコンクール(1965 ワルシャワ)に出場し特別銀賞を受賞、一躍注目を集め、オストロクシキ宮殿でのデビューリサイタルで「偉大で小柄な日本娘」のタイトルで絶賛された。ポーランド国営テレビ・ラジオに録音多数。世界的ショパン奏者ステファンスカ夫妻に見いだされ、その内弟子として5年間更なる研鑽を積む。

1974年からパリ在住。ヴラド・ペルルミュテルにラヴェル全作品の指導を受け、フランス国営テレビ・オーディションにて最高位を収め、同局に録音を残す。その間、激賞されたロンドン・デビュー、パリ・デビューの他、北米、旧ソビエト、ハンガリー、ルーマニア、東ドイツで演奏。特にユーゴスラビアには毎年招かれ、巨匠アルド・チッコリーニの夏期講習(オフリッド)を受け継ぎ、長年にわたり講師を務めた。その功で、オフリッド25周年功労賞を受賞。帰国後は、東京芸術大学講師、聖カタリナ大学客員教授を務めるかたわら活発な演奏活動を行う。特にCD「ショパン序破急幻」が松本サリン事件で植物人間状態となり眠り続けた女性の意識を覚醒した奇跡は、連日マスコミで大きく報道され、東京サントリーホールでのチャリティコンサートの収益(600余万)が、5,000人のサリン患者のため寄附された。これまで共演したオーケストラは、ワルシャワ・フィル(定期)、クラクフ・フィル(定期)、ハンガリー国立フィル、グルノーブル市立オケ、N響、読響、日フィル、新日フィル、東響、東フィル、都響、札響、京響、大フィルなど多数。また、ショパン国際ピアノコンクールをはじめ多数の音楽コンクールの審査員を務める。NHK教育テレビ・NHKラジオの番組「こころの時代」に幾度も出演し、自らの人生を通じて「こころ」の問題についても語っている。CD、著作多数。2000年にはポーランド国家プロジェクト「ショパン全曲演奏」(於東京・上野旧奏楽堂、ポーランド大使館・同奏楽堂共催)の演奏に対して、ポーランドのショパン年実行委員長(文化芸術大臣兼務)からショパンのブロンズ像を授与された。2015年春、「ポーランド共和国聖十字功労勲章」叙勲。同春、東日本大震災被災者支援の活動に対し「瓦礫(がれき)を活かす森の長城プロジェクト」理事長、細川護熙元首相から感謝状を贈られた。ポーランド共和国文化功労者、日本ショパン協会理事、NPO法人まざるか北海道(音楽による福祉団体)理事長、遠藤道子記念音楽館館長。

### 【参加お申し込みについて】

大使館の要請で事前登録が必要です。希望者多数の場合は定員になり次第締め切らせて頂きますので、参加ご希望の方は6月9日(木)までに「ご芳名と連絡先(メール・TEL・FAXのいずれか)」を記してお早めにお申し込みください。

(申込先)

E-mail : hokkaidopolandca@gmail.com

TEL : 080-4049-0956 (安藤) 03-6804-1058 (音響計画)

FAX : 011-556-8834 (安藤) 03-6804-6058 (音響計画)

《第77回例会》(第2回東京例会)

# 遠藤郁子ピアノリサイタル 「ショパンと私とポーランド」

2016年6月23日(木) 18:30～(開場 18:00) (演奏会)  
20:00～21:00(レセプション)  
ポーランド共和国大使館ホール  
(東京都目黒区三田2-13-5)

参加無料、定員100名

希望者多数の場合は定員になり次第締め切らせて頂きます。また、大使館の要請でご出席のみなさまのお名前の事前登録が必要です。

つきましては、

「ご芳名と連絡先(メール・FAX・TEL いずれか)」を記して、お早めにお申し込みください。

申込先:

メール [hokkaidopolandca@gmail.com](mailto:hokkaidopolandca@gmail.com)

FAX 011-556-8834

携帯080-4049-0956(安藤)

申込期限: 6月9日(木)

北海道ポーランド文化協会第77回例会(第2回東京例会)

## 遠藤郁子

ピアノリサイタル  
「ショパンと私とポーランド」

Program

Chopin  
Nocturne Fis-dur Op 15-2  
(夜想曲 嬰へ長調 Op 15-2)  
Prelude Des-dur Op 28-15  
(前奏曲 変ニ長調 Op 28-15「雨だれ」)  
Nocturne cis-moll Postum  
(夜想曲 嬰ハ短調 遺作)

Chopin  
Etude E-dur Op 10-3  
(練習曲 小長調 Op 10-3「別れの曲」)  
Etude c-moll Op 10-12  
(練習曲 ハ短調 Op 10-12「革命」)

Chopin  
4 Mazurkas Op 24-1, 2, 3, 4  
(4つのマズルカ Op 24-1, 2, 3, 4)

Chopin  
Polonaise As-dur Op 53  
(ポロネーズ 変イ長調 Op 53「英雄」)



主催:北海道ポーランド文化協会

共催:ポーランド広報文化センター

後援:シアターX(カイ)、日本ショパン協会、

(株)河合楽器、音響計画(株)



ポーランド広報文化センター  
INSYTYT POLSKI TOKIO



恵比寿駅からポーランド共和国大使館へ徒歩 1.1 km13分

このたびポーランド広報文化センターの共催をいただき、本会《第77回例会》(第2回東京例会)として、遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパンと私とポーランド」を開催できますことは、まことに喜ばしく、光栄に存じます。

遠藤郁子さんには、お母上、本会創立当初より副会長として長くご尽力いただきました遠藤道子先生以来のご縁で、長らく本会にご参加いただいています。

遠藤郁子さんのピアニストとしての世界的な名声、傑出した演奏歴、第7回ショパン国際ピアノコンクール特別銀賞をはじめとする輝かしい受賞歴は、ここで改めてご紹介するまでもないと思います(詳しくは別添のプロフィールをご覧ください)。

本企画にお力添えをいただきました、ポーランド広報文化センターのミロスワフ・ブワシチャック所長はじめ、後援を賜りました諸団体および本会東京事務所のみなさまのご尽力に厚く御礼申し上げます。

ご参加いただきますみなさまには、初夏のひとつときを心ゆくまでお楽しみいただけますようお願いいたします。

北海道ポーランド文化協会  
会長 安藤 厚

プログラムとして書道、折り紙、水墨画ワークショップなどを実施)、④年度末の6月にウヅジ市日本語スピーチフェスティバル(昨年から始まった最新プログラム。日本語のスピーチ技術力を競うよりも日本語を楽しむ交流の場として、市内で日本語を学ぶ生徒、学生、社会人が日本語を通して交流・発表し、ウヅジ滞在の日本人留学生がポーランド語で発表する。今年は54名が参加などのほか、ウヅジ工科大学での日本語市民講座、民族考古学博物館での水墨画教室などが通年で毎週開催されている。

#### 4. 終わりに

私が初めてウヅジの街へ来たのは1978年秋、留学生としてだった。札幌から横浜へ行き、船でナホトカへ向かい、モスクワ経由、列車でワルシャワ、ウヅジへ辿り着いた。終着駅の、街の中央にあるファブリッチナ駅ホームに降り立ったときは、長旅の安堵とついに来たかの思いがまさり、まさかその後この街で働き、生活するようになるうとは夢にも思わ

なかった。経済不安、自由化闘争、戒厳令、社会主義崩壊、EU加盟という激動の中で、クロー教授と一緒に日本協会ウヅジ支部立ち上げ、工科大学日本語教育事業などを行い、ポーランド人女性と家庭を持ち、娘を育て、今年7月末その娘が結婚した。娘が生まれたのは、ヨーロッパ東西陣営の地殻変動が起こり、日本は昭和から平成に移行した1989年だった。平和の泉、和を伝える泉になってほしいという思いを込めて和泉と命名した。クロー教授が健在であったなら、誰よりも娘の晴れ姿を喜んでくださったに違いない。私は微力ではあったが、草の根交流として今日まで継続して続けられたのは、周囲の理解と家族に支えられてのことだった。

今回これまでの活動を振り返り思いを新たにする執筆の機会を与えてくださった安藤会長と小笠原副会長に感謝申し上げます、双方向の継続がさらに豊かなものとなるよう継続する大切さを感じている。

「北海道ポーランド文化協会の皆さん、これからもどうぞよろしく！」



〈後援イベント〉のお知らせ

### 李政美 (イジョンミ) コンサート

曲目:今日は帰れない(ポーランドパルチザンの歌)ほか、2016年9月21日(水)19:30~、札幌豊平館、料金3,000(当日3,500)円;9月22日(木・祭)19:00~、小樽文学館、料金2,500(当日3,000)円、予約・お問合せ:熊谷 080-4045-1461

札幌豊平館、小樽文学館という歴史文化の息づく空間でイジョンミさんの感動の美声を共に感受出来ましたら、本当に嬉しい限りです。(熊谷敬子)



### 遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパン序・破・急・幻」

2016年9月15日(木)19:00~、六花亭札幌本店6Fふきのとうホール(北4西6)、入場料5千円、お問合せ:オフィス・ワン 011-612-8696

能の演目に見立てたショパンの音魂(おとだま)が幽玄の世界に響く。いのちの深淵を見たピアニストが紡ぎ出す魂の音楽。

#### 《第77回例会》(第2回東京例会) 報告

### 遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパンと私とポーランド」

2016年6月23日(木)18:30より、ポーランド共和国大使館ホールにて、遠藤郁子ピアノリサイタル「ショパンと私とポーランド」が開催され、約100人が遠藤郁子さんの全曲ショパンのすばらしい演奏に聞き入りました。演奏終了後には、コザチェフスキ大使から花束が贈呈され、またポーランド広報文化センター主催のレセプションが催されました。(東京事務所長 霜田英磨、写真:尾形芳秀)

